

肯山公三百年遠忌

―塩竈を救った―

仙台藩四代藩主伊達綱村公―



▲伊達綱村肖像[東園寺蔵]

今年、塩竈を衰退の危機から救った仙台藩四代藩主伊達綱村公(肯山公)の三百年遠忌(おんき)に当たります。綱村公の功績や伊達家と塩竈・鹽竈神社とのつながりを現代の視点から見つめ直し、未来の塩竈をつくる道しるべとするために、記念事業を実施します。

仙台藩四代藩主伊達綱村公

伊達綱村公(1659〜1719)は、仙台藩祖政宗のひ孫にあたります。

2歳で伊達家を相続し、寛文11(1671)年に寛文事件(伊達騒動)がおこりましたが、幕府の裁定で藩領を安堵されました。

自ら藩の政治を行うようになった綱村公は、沿岸への防風林設置や運河の開発などで成果をおさめました。また、儒学を学び、多数の学者を従えて藩史の編さんに尽力するとともに、

に、寺社の整備にも努め、仙台藩復興の名君とたたえられています。

「貞享(じょうきょう)の特令」をはじめとする政策により塩竈を救ったことでも知られ、「塩竈の恩人」として語り継がれています。

塩竈を救った「貞享の特令」

塩釜港は仙台の外港として、近世初頭以来発展を遂げてきましたが、貞山運河が開通すると、船は運河を通じて蒲生から仙台に物資を運ぶようになり、塩竈を取り巻く経済状況は悪化の一途をたどりました。同じころ、病気が流行し、火災、作物の不作なども重なり、塩竈の人々は大打撃に苦しみました。

時の藩主で、鹽竈神社を深く崇敬していた綱村公は、この状態を見かねて天和2(1682)年に塩竈の年貢を免除し、さらに貞享2(1685)年には、各種租税の免除や毎年250

両を下賜(かし)すること、商人荷物・五十集(いさば)とよばれた海産物・材木を積んだ船はすべて塩釜港に入港すべきことなどを定めた9か条からなる異例の塩竈復興令を発しました。これが「貞享の特令」です。

この特令により、仙台領内に入る米以外の多くの物資は塩釜港で荷揚げされるようになり、塩竈は大いにぎわいました。江戸からさまざまな商品が持ち込まれ、商店や酒造業、旅館が競うように軒を並べました。また、塩釜港が海産物の独占的な水揚港として指定されたことにより、これを扱う

肴(さかな)問屋が出現し、仙台に至る「肴の道」も成立しました。

「貞享の特令」が、衰退にひんしていた塩竈を復活させたのです。



▲小池曲江筆「塩竈村の者共に申渡す事」[貞享2(1685)年 鹽竈神社蔵]

塩竈で語り継がれる綱村公

明治になり、藩の保護政策がなくなると、再び塩竈に危機が訪れまし

た。当時の塩竈の有力者達は綱村公の戒名を冠した「肯山講」という会を組織し、私財をもって港を浚渫(しゅんせつ)し、塩竈復興の基礎を造りました。

以来、綱村公の位牌寺である東園寺では、肯山講の方々を中心として、命日の前日にあたる6月19日に速夜法要が行われてきました。

三百年遠忌にあたる今年には、6月17日に法要が行われ、綱村公の禅体験や漢詩に関する講演、鼎談(ていだん)なども予定されています。別室でのモニター視聴になりますが、一般の方の参加も可能です。

肯山公三百年遠忌法要

とき 平成30年6月17日(日)

午後3時〜

ところ 東園寺(旭町4-1)

内容 講演会「綱村公と如幻三昧集」

鼎談「お殿様の禅修行」

参加費 一般参加は無料

定員 50人※先着順

※申し込みは、東園寺ホームページまたはフェイスブックをご覧ください

☎松巖山東園寺 ☎36210777

7月号では、市内に残る綱村公の事跡を紹介します。

生涯学習課学習支援係

☎36212556